



鳥獣害の実態と対策について

- 鳥獣害の実態と課題
- 鳥獣害対策事例
 - ー エサの盗食・乳牛への被害対策
 - ー エゾシカによる牧草の食害対策
 - ー サイレージシートの破損対策

宗谷農業改良普及センターだより 通巻37号(令和2年6月10日) ■バックナンバー 宗谷普及センターホームページ http://www.souya.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/katsudou/ayori_top.htm

そらのひと

令和元年度北海道指導農業士認定

宗谷管内から、豊富町の長尾秀幸さん、若林正己さん、本間哲也さん、枝幸町の関口真也さんの4名が北海道指導農業士に認定されました。今後の活躍が期待されます。



若林さん、長尾さん、本間さん【豊富町】



関口さん【枝幸町】

職員紹介

お世話になります。
よろしくお願いいたします。

転入者

宗谷本所



よしだ ただし
所長 吉田 忠
(根室農業改良普及センター
北根室支所より)



なかつか ももえ
地域係長 中塚 ももえ
(北海道立農業大学校より)



主査(情報・クリーン・有機)
にわ おりえ
丹羽 おり恵
(釧路農業改良普及センター
釧路中西部支所より)

宗谷北部支所



みうら たかお
主査(肉牛) 三浦 孝雄
(十勝農業改良普及センター
北部支所より)



ながい まもる
専門主任 永井 守
(新規採用)



せや ちさと
普及職員 瀬谷 千里
(新規採用)

転出者

お世話になりました。

- 佐藤 公之(定年退職)
- 市村 健(釧路農業改良普及センター中西部支所へ)
- 脇坂 裕二(日高農業改良普及センターへ)

- 雲 義美(十勝農業改良普及センター北部支所へ)
- 山本優美香(退職)
- 塩 規江(十勝農業改良普及センターへ)
- 伊藤 大地(退職)

今号の表紙

～放牧地で情報交換～ 放牧を考える会 視察研修

天塩町の高原牧場にて、ライジングプレートメーターを活用した放牧管理など、「効率的な酪農経営」について学びました。

おしらせ 本紙掲載ホームページのQRコードについて

スマートフォン・タブレットからQRコードリーダーを立ち上げ、読み込ませると本紙掲載ページがご覧になれます。



鳥獣害の実態と対策について

鳥獣害の実態と課題

野生動物による農業被害は、多く報告されており、エゾシカ、カラスのほか、近年は、アライグマによる被害が拡大しています。主な鳥獣害としては、エゾシカによる牧草の食害に加え、カラス、アライグマ、キツネなどによるサイレージシート(※)や購入飼料の袋の破損・盗食などがあります。また、牛舎内に侵入し、乳牛や子牛を襲うなど経済に直接損失を与える被害も少なくありません(表1)。

全道的な鳥獣被害金額は、H23年をピークに減少していますが、一定の水準で推移していることから(図1)、根本的な解決に至っていないのが現状だと思われれます。

今回は、鳥獣害の対策事例について紹介します。※サイレージシート(今回は、クロスシートやスタックシート、ラップフィルムなど)牧草サイレージに使用するシート等の総称として使っています。

表1 主な鳥獣別農業被害

被害額	対象鳥獣	被害対象				
		牛	飼料・配合飼料	牧草	コーン	サイレージ等
多 ↑ ↓ 少	エゾシカ			◎	△	○
	カラス類	◎	○	△		◎
	アライグマ	○	○		△	◎
	キツネ	○	△			△
	ヒグマ	△		△	△	△

※被害額が高い順に◎、○、△で表示
※参考資料 宗谷総合振興局 野生鳥獣による被害調査(H30年度)

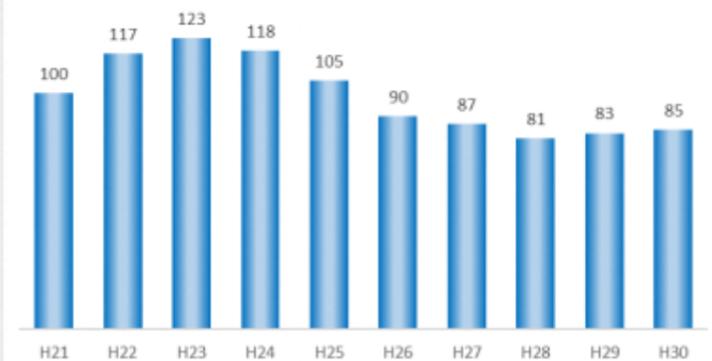


図1 H30年度農業による被害金額の推移(H21を100とした場合)
※参考資料 野生鳥獣被害調査結果(平成30年度分)北海道



2 エゾシカによる牧草の食害対策

エゾシカによる牧草の食害は、大きな問題です。食害で牧草収量が少なくなると、原価の高い粗飼料となってしまう。また、新播草地での被害が大きいことから、草地更新の意欲低下を招きかねません。草地の食害対策としては、電気柵や金網フェンスなどの鹿柵設置が主流です。

電気柵導入決定支援シートで導入効果を確認

鹿柵設置は費用もかかるため、二の足を踏む方も多いと思います。「電気柵導入決定支援シート」(表2)では、面積や柵の単価を入力することで導入効果の判定ができます。導入判断の参考に活用してみてください。

表2 電気柵導入決定支援シート(農研機構) ※ファイルは農研機構のHPからダウンロードできます。

牧草被害率に基づく電気柵導入決定支援シート

地域や柵の種類などを選択

面積や柵の単価、被害率などを入力

導入効果の判定結果が出ます

鹿柵設置費(円/年)	298,880
電気柵導入費(円)	410,500
初期投資回収可能年数	1.4年
判定	導入すべき

3.6

【鹿柵設置の考え方】

- ・新播など新しい草地や主力草地を重点に設置する。
- ・特定のほ場に鹿柵を設置することによる近隣のほ場への被害増加を防ぐため、地域全体での鹿柵設置も視野に入れ、検討してみたいがでしょう。

事例 防鳥ネット設置でサイレージシートの破損を防止(中頓別町 N牧場)

N農場では、カラスによるサイレージシートの破損対策として、防鳥ネットを設置しました。設置の翌日からカラスの数が減少し、効果を実感しているそうです。使用した商品は「防鳥網50坪 45mm目 幅9m*長さ18m」(約2,000円)。バンカー(幅8m*長さ44m)に対し、2セット使用しました。「安価な対策で高い効果があったので、今後も続けたい」とのことです。



写真4 防鳥ネットを設置したバンカー

3 サイレージシートの破損対策

カラスやアライグマなどがサイレージシートに穴を開ける被害に困っている方は多いと思います。サイレージシートの破損は、破損部分のサイレージが空気にふれることによるカビの発生や、雨水の流入による劣化などサイレージ品質の低下を招きます。サイレージのロスはもちろん、品質が低下したサイレージの給与は、乳房炎の発症など乳牛の体調にも影響し、経済的な損失が大きくなります。

1 エサの盗食・乳牛への被害対策

牛舎周りは配合飼料や粉ミルクなどがあり、アライグマやネズミをはじめとする小動物やカラスなどの鳥類にとっては格好のエサ場です。エサをねらった野生動物が、牛舎内に侵入、乳牛へ危害を与えるなど被害拡大の可能性も高まります。被害を防止するためには、野生動物を誘引するエサ場をつくらないことが大事です。

ネズミなどによる食害防止事例



写真2 粉ミルクの紙袋を空き容器に収納



写真1 スターターを蓋付きのケースに収納

事例

配合タンクの下に落ちた飼料は片付けるなども有効

そのほかの対策



写真3 牛舎出入口の防鳥対策



テンの被害も聞かれます ※写真:農業者提供

ネズミなどの小動物の隠れ場所を減らす

- ・草刈りをこまめにするなど、環境整備を行う
- ・ラップサイレージは間隔をあけて置く

そのほかの対策



写真5 ラップサイレージの食害

【防鳥ネット設置の留意点】
サイレージ収穫後は、サイレージシートに穴を開けられる前になるべく早い段階で防鳥ネットをかけましょう。
冬場は凍結してサイレージシートに張り付くことがあるため、冬になる前に冬用サイレージ分のネットは、取り外しておきましょう。